

FUYYOU

36

2024・1

新年号

ずっと、そっと、想いのそばに。医療法人 芙蓉会



新年ご挨拶

医療法人芙蓉会 理事長 村上 拓也

CONTENTS

- 新年ご挨拶…………… 医療法人芙蓉会 理事長 村上 拓也
- ふようトーク…………… 対談 チーム フロンティア
「地域 × 病院 手と手を取り合いながら、これからも開拓し続けていきたい」
- 栄養士のれしびのーと…………… サーモンの醤油糀バタームニエル
- RakuRaku エクササイズ…………… 座ったままでできる指体操②
- 芙蓉会ものがたり…………… 第4話 ～ 四代目 村上 惇 ～
第5話 ～ 五代目 村上 拓也 ～
- ぬり絵コーナー…………… キャラクターたちから新年のお祝い！
- かわら版…………… 法人60周年のTVCMをつくりました／季刊誌ふよう リニューアルのお知らせ

明けましておめでとうございます

旧年中は当法人の運営に際し、多くのご支援を賜り誠にありがとうございます。このように穏やかな新年を迎えられますのも皆様のおかげであり感謝申し上げます。

本年も皆様に幸多い年となりますことを祈念いたします。

2023年はこのような年でした。

長い間振りまわされた新型コロナウイルス感染症も、昨年の5月に第5類感染症に移行されました。日常生活の場面ではいままなお手探りの状況も見受けられます。それでも、既存の行動様式に変更を加え、それぞれがおかれた環境に適應できるようにになりました。その結果、多くの場面で新しい日常をつくりあげることができ、人々の往来や人的交流なども活発化してきました。

それまでの行動様式への変更と対応、この流れはさらに加速されると思います。

今回、私たちは多くのことを経験し、反省し、学びました。そして、そこから得られたのは「備える」ことの重要性です。行動様式の変更と対応、またどのようなことが起きても対応するという心構えができたことで法人全体の基礎体力は向上したと確信しています。

2024年という年は、

今年、診療報酬・介護報酬・障がい福祉サービス報酬、これら改定の「トリプル改定」が実施され、それへの対応が必要となります。と同時に、医療福祉業界全体が直面している大きな問題が「担い手不足」です。青森県では若年層が流出傾向であり、現場の担い手不足はさらに深刻です。対策として、働く環境の整備が急務であり、これまでは違った視点・手法を駆使することが必要です。「ご利用者様のために」という当法人の想いを実現するためにも、現場の担い手確保は必須項目であり、その意味で働く環境の整備は、本年重要課題のひとつと捉え取り組みを強化する所存です。

特別な意味を持つ

さて、2024年は私たちにとって特別な意味を持つ年です。1964年（昭和39年）に医療法人芙蓉会を設立し、今年で60周年という節目の年にあたるためです。私たちがこの年月、法人運営をできましたのは、地域の皆様、各関係機関の方、また、日々業務にあたる法人全職員のおかげであり、感謝の念に堪えません。

これまで培ってきた伝統・文化を次世代に受け渡し、また未来へと進む強い意志を持ち、これまでに以上に地域貢献できる法人運営を目指してまいります。



新年のご挨拶

医療法人 芙蓉会
理事長 村上 拓也



地域×病院

手と手を取り合いながら、これからも開拓し続けていきたい



『チームフロンティア』は地域の相談支援事業所スタッフと病院内スタッフとの多職種チームです。平成30年から活動をスタートし、今日までの間には様々な活動に挑戦してきました。

『なんでも相談会』

フロンティア活動として初めて活動した取り組みです。患者様と地域の方がつながり、気兼ねなくなんでも話せる機会や場となるよう毎月開催してきました。地域にも気軽に相談出来る支援者の方がいることを広く知ってもらいたいと思っています。

『社会資源上映会』

地域にある自立訓練事業所やグループホームなどを動画にまとめ、フロンティア独自のDVDを作成しました。定期的に社会資源上映会として患者様へご案内しています。今後は「こんな住まいがあるよ」「こんな仕事があるよ」ということで実際に足を運ぶ見学ツアーなども実現していきたいと考えています。

※社会資源…社会福祉の援助過程で用いられる資源。機関、人材、資金、技術、知識等の有形無形の資源の総称。

今回は『チームフロンティア』メンバーである4人が、それぞれ感じることや、これからの展望を語り合いました。

— 手探りの状況から始まった

斎藤 『チームフロンティア』として活動し、気づけば早5年となりました。この5年を振り返り、皆様いかがでしょうか？

大場 もう5年経ったんですね。活動が始まったきっかけは地域移行を活性化させようという行政側からの発信だったと思います。実際に5年前の青森市内の状況は地域移行という制度をうまく使いこなせていない実情でしたが、すごくいいきっかけになりました。地域、生活を新たに開拓していこうという思いで活動するチームを『チームフロンティア』とし、スタートしました。コロナ禍という理由で様々な活動がストップしている中でも、チーム皆が出来ることは何かを模索し、活動を続けたことを誇らしく思います。その結果、フロンティア活動は青森市内でも浸透した気がしますし、地域移行という制度自体が普及し、選択肢として活用できていると感じます。

【対談メンバー】 大場 匡人：居宅介護支援事業所・特定相談支援事業所サニーフィールド 管理者、主任相談支援専門員
（写真左から） 成田 豊：特定・一般・児童相談支援事業所ホットミルク 管理者、主任相談支援専門員
斎藤 徳子：芙蓉会病院地域医療連携室主任、精神保健福祉士
江戸 走太：芙蓉会病院看護主任代理、看護師

成田 本当に手探りの状況から始まった記憶があります。それでも初めて実施した病棟内での『なんでも相談会』は鮮明に覚えています。患者さん皆が「なんだろう？」という表情から一人二人とやってきて話をすることができたり、スタッフからも「自分もいいですか？」と質問してきてくれたりと、すごく楽しい時間でした。令和元年には、病棟スタッフから地域移行について勉強会の講師依頼があって、それもうれしかったですね。その後はコロナ禍となってしまったので、継続的な関わりというのは難しくなりましたが、今後はフロンティアや地域の活動を病院全体に浸透させていけたらと考えています。

また、自分たちのような地域の支援者同士が横につながっていったことも大きかったと思います。地域資源が広がることは患者さんにとっての安心にもつながっていきます。フロンティア活動は地域の相談支援専門員一人ひとりの成長の場にもなっていると感じます。

大場 『なんでも相談会』は退院できる人のみに限定するのではなく、地域とつながりたい人たちが話をできる機会であり、これまでたくさんの方が参加してくれて、本当に嬉しかったですね。

笑顔で退院しますと教えてくれた方、最後に感謝の気持ちを自身が描いた絵とともにプレゼントしてくれた方、本当に思い出深いです。自分が関わった方々が地域で元気に生活していることがすごく嬉しいです。

フロンティアだからこそ、色んな方々と出会うことができ、地域の色んな相談支援専門員と話す機会があると思います。

— 同じ方向を向き続けて

斎藤 こうして振り返ると感慨深いものがありますね。最初は地域から5事業所、院内からもメンバーは4人でしたが、気づけば今は10事業所に増え、院内メンバーは12人となっています。一緒に同じ方向を向いて進んでいけるチームがあるのはすごく嬉しいです。

江戸 しかし、浸透してきているように見える一方で正直まだまだと思う場面も多々あります。同じ病院内でもフロンティアの存在を知らない人もいます。看護師としてフロンティアという場や地域の大きな可能性を知る、見る機会をもっと増やしていけたらと思っています。

成田 フロンティアを通して、普段やり取りしている精神保健福祉士さん以外に顔なじみの看護師さんや作業療法士さんが出来たことも自分たちにとってはすごくありがたいことだったと思っています。

大場 いざ初めてのことをやるって難しいですよ。でもこのチームは所属も職種も全然違うのに、一体と

なって同じ方向を向き続けて活動し続けたって…やっぱりすごいことですね。

斎藤 フロンティア活動の今後の展望としては、フロンティア活動の醍醐味であるお互いに顔と顔が見える場作りを再開し、患者さんが自ら選択して自由に地域の方々とつながれるようになっていただきたいと強く願っています。

大場 ご家族の方々にとっては自分たちが想像する以上に苦労や不安があると思います。だからこそ地域にもっと精神疾患への理解を深めてもらって、患者さんも家族も、みんながハッピーである地域生活を目指していきたいと思っています。

江戸 ちょうど当院の家族会でも今後相談支援事業所の皆様に勉強会と相談会を開催してもらえることとなり、本当に素敵な機会だと思っています。大場さんがおっしゃってくださったように、自分たちが想像する以上にご家族が感じている部分はあると思います。援助者が一方的に支援の方向性を決めるのではなく、ご家族、患者さんの声を大事にしていきたいですね。

成田 希望としては、このフロンティアがついているなら大丈夫という地域にいつかなってほしいと思います。失敗を許容できる世の中になってほしい。フロンティアとして地域づくりにも力を入れていきたいですね。

— 失敗をおそれず挑戦し続ける

斎藤 皆さんそれぞれ、私たちフロンティアの役割をどう考えていますか？

成田 自分は、フロンティアは地域のスタッフ、病院のスタッフ、それぞれの役割に境目がないと考えています。それが医療と福祉の壁を低くできていると思います。「入院患者さんに外の空気を吸ってもらう」「体験してもらうことが出来る」ということも、壁が低いからできることだと思います。

大場 お互いの役割をいい意味で意識したことがなかったかもしれません。退院した方に寄り添い、一緒に動いてくれるのが『チームフロンティア』ですよ。

江戸 役割の境目が無い連携が功を奏している状況は把握しています。しかし一方で各職種の専門的な強みをもっと発揮される状況を作ることも発展のきっかけの一つになるのかもしれないとも考えています。

斎藤 仲間が増えたことは私たち支援者にとっても心強いですし、患者さんやご家族、地域にとっても安心につながっていると思います。その中でお互いを理解しあいながら、この先もできることは何かを模索し続け、私たち支援者自身も失敗をおそれずに挑戦していきたいですね。

栄養士のれしぴのーと

サーモンの醤油麹バタームニエル



醤油麹にはうまみ成分のグルタミン酸がたっぷり。サーモンのおいしさをさらに引き立てます。

サーモンの醤油麹 バタームニエル

テーマ「醤油麹を上手に使って
青森県産サーモンを
おいしくいただきます」

【作り方】

- ① 醤油麹にサーモンを一晩漬けておく。
- ② 翌日、表面についた麹は少し取り払い小麦粉をまぶす。
- ③ フライパンにバターを溶かし弱火でゆっくり焼く。
Point! 焦げやすいので注意
- ④ 付け合わせは全部火を通してからフライパンにオリーブオイルを熱し軽く炒める。
Point! かぼちゃは崩れやすいので最後に合わせる
- ⑤ 塩こしょうで味を調え完成。



(写真は2人分です)

【材料】1人分

サーモン醤油麹バタームニエル

- ・青森県産サーモン 1切れ
- ・醤油麹 5g
- ・小麦粉 3g
- ・バター 5g



付け合わせ

- ・ブロッコリー 30g
- ・いんげん 適量
- ・人参 30g
- ・オリーブオイル 小さじ2
- ・かぼちゃ 30g
- ・塩こしょう 適量

★1人分の

エネルギー 230Kcal、たんぱく質 13.5g、塩分 0.8g

椅子に座った姿勢で行います。背もたれを利用しても良いですが、可能な方は背中を伸ばし、背もたれを使用せずに座って行ってみましょう。



両手握り体操

両手の指を互い違いになるように組みます。ゆっくりと息を吐きながら指先に力を入れ握ります。3~5秒程度10回を目安に行いましょう。



1 両手を組む



2 指先に力をこめる



3 握る

3~5秒程度、10回を目安に行いましょう

座ったままでもできる指体操②

体操の目的と効果

今回も道具などを使わなくても気軽に座ったままできる指体操をご紹介します。握る・つまむなど細かい動きができる指先は生活の様々な場面で使う部位で、脳につながる神経も多くあります。指を効果的に動かすことで、筋力を鍛えるだけでなく細かい作業での巧緻性の向上や脳の活性化にも良いとされています。いつでも、どこでも取り組みやすい体操なので、楽しみながら行っていきましょう。

左右でじゃんけん体操

両手を軽く前に出します。右手と左手でじゃんけんをし、右手に左手が勝つように出します。「じゃんけんぽん」と声をかけながら、1回毎リズムカルに出す手の形を変えてみましょう。



右手に左手が勝つように

右手がチョキなら左手はグー

左右反対曲げ伸ばし体操

両手を軽く前に出し、右手をグー、左手をパーの形で準備します。親指から順番に指を1本ずつ、右手の指は伸ばし左手の指は曲げていきます。5本動かし終わったら、同様に左右を逆にして曲げ伸ばします。「1・2・3・4・5」と数えながらリズムカルに行ってみましょう

1 右手をグー、左手をパーの形で準備



2 親指から順番に、右手の指は伸ばし左手の指は曲げていく



3 同様に左右を逆にして曲げ伸ばし



指1本ずつ片方は曲げ、もう一方を伸ばしていきます

巧緻性UP

脳の活性化

1・2・3・4・5と数えながらリズムカルに♪

体操中は息を止めないように、数を数えながら行いましょう。また、体調不良の場合や痛みがある場合は無理せずに中止してください。



芙蓉会ものがたり 第4・5話(最終回)



4代目 村上 惇
(むらかみ あつし)

四代目の村上 惇は、昭和46年9月に三楽病院に勤務し、平成7年4月に医療法人芙蓉会の2代目理事長に就任しました。平成14年7月には三楽病院を廃止し、芙蓉会病院を青森市雲谷地区に新規開設します。(精神科354床、内科53床)。平成24年4月には介護・福祉事業の包括的拠点として総合ケアセンターさんらくを開設。同年6月には村上病院に診療科目を追加、利便性を向上させたうえで、現在の浜田地区へ移転させました。医療の他に介護・福祉サービスを充実させることで、「地域で暮らすお一人おひとりを芙蓉会全体でお支えする」体制作りを推し進めました。

村上 惇から法人職員にあてたメッセージ

(平成17年度 事業発展計画書の巻頭文)より

「野火烧不尽 春風吹又生」

(やかやけどもつきず しゅんふうふいてまたしょうず)

白楽天 賦得古原草送別より

「野火がどんなに激しく燃えても、草を焼き尽くすことは出来ない。根さえしっかりしておけば春風と共に又、新しい生命の芽が吹き出し、やがて緑の草原になる。

私は、しっかり青森の大地に根をはり、地域の方々から絶対必要とされる芙蓉会にしたいのです。」



5代目 村上 拓也
(むらかみ たくや)

現理事長の村上拓也は、初代愛吉から数えて五代目にあたります。平成16年4月に芙蓉会病院入職、同30年4月に院長就任。令和2年4月には医療法人芙蓉会三代目の理事長に就任しました。理事長就任以前より、精神医療の現状を広く知っていただきたいという思いから、診療の傍ら講演活動にも力を注いできました。

理事長に就任した令和2年(2020年)新型コロナウイルス(COVID-19)感染症が全世界を震撼させました。日本政府はこれを「歴史的緊急事態」に指定、WHOも「パンデミック」宣言する事態となりました。世界中であらゆる人々の日常が奪われ、特に医療の現場は大混乱に陥りました。当法人も施設運営の面で、各所大きな打撃を被ります。そのため、理事長就任早々、関係各所と日々協議を重ねその対応にあたる日々が続きました。

そのような状況の中でも、現理事長が法人運営の中心に据えてきたものは

「利他の心」です。

「自分のことだけを考えるのではなく、まずは他の人のために考え、力を尽くす」この思いが無ければ、地域の方々にご満足いただける医療・介護・福祉サービスは提供できないと考えているからです。

初代愛吉の思い「人々の命を守り、地域の役に立ちたい」

この思いは芙蓉会の伝統となり、140年以上経ったいまでも私たちに受け継がれ、そして次の世代へと受け渡されていきます。

みなさまへ

これまで、芙蓉会ものがたりをお読みいただきありがとうございました。「ものがたり」は今回をもちまして、一旦お休みとさせていただきます。近い将来「ものがたり」の続きを、みなさまにお届けできる日が来ることを、楽しみにしております。

「芙蓉会ものがたり」編集担当一同

さんらのマスコットキャラクター
さんらッキ〜ん

こはるのマスコットキャラクター
こはるんだ

美穂会館のマスコットキャラクター
FUYOON&R

ニューライクのマスコットキャラクター
ニャ〜ライク

村上会館のマスコットキャラクター
むらかめ〜ん



ぬり絵コーナー:みんなで作るときはコピーしてつかってね!



ずっと、
そっと、
想いのそばに。

法人60周年のTVCMをつくりました。
「ずっと、そっと、想いのそばに 編」

▶こちらからご覧いただけます。



FUYOU リニューアルのお知らせ

いつも季刊誌 FUYOU を手に取っていただき、ありがとうございます。

さらに皆様のためにお役に立てる情報をお届けしたい！

もっと医療法人芙蓉会を身近に感じてほしい、との思いから、

60周年を機に季刊誌 FUYOU は、次回発行より隔月発行（年6回発行）

になってリニューアルいたします。

これからも、皆様に寄り添った情報発信に務めてまいりますので

リニューアルを楽しみにお待ちください。

Coming Soon...

【理念】

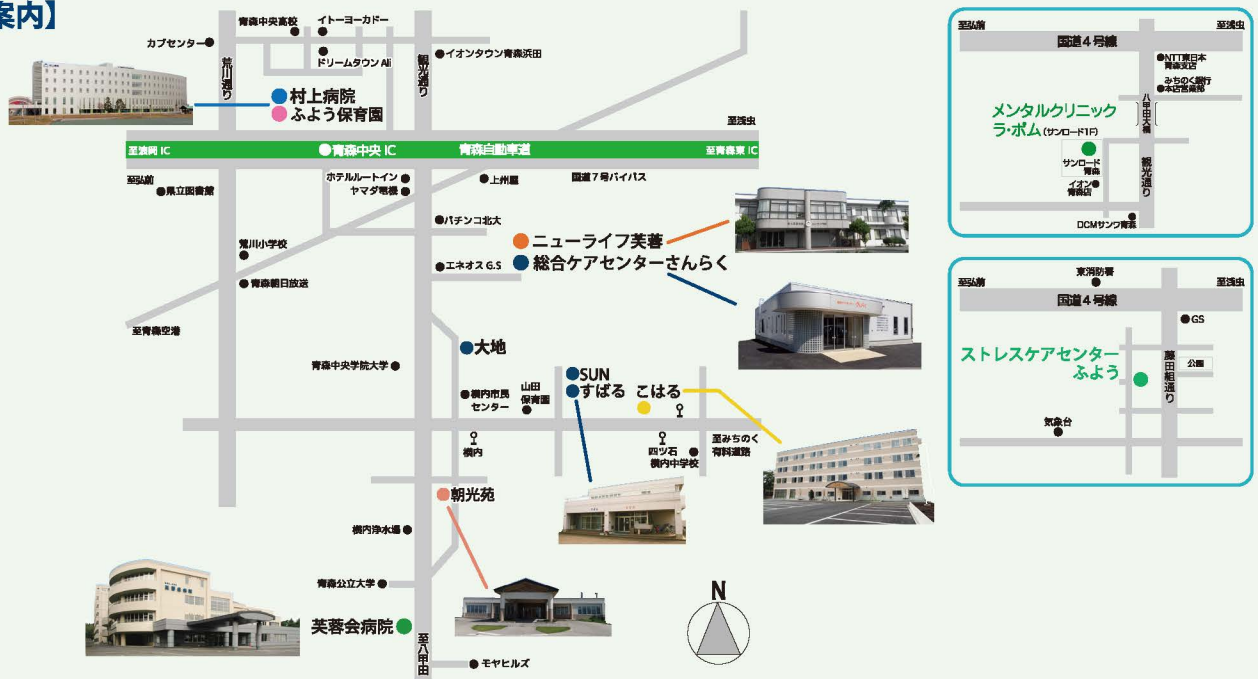
入所している方とご家族も安心して医療・介護を受けられる地域に必要とされる施設を目指します

【芙蓉会グループのネットワーク】

一人ひとりの患者さま、利用者さまの状況に合わせた医療・介護・福祉サービスを提供できるように、各施設が互いに協力し合うネットワークを結んでおります。



【交通のご案内】



■ 芙蓉会病院	青森市大字雲谷字山吹 93-1	TEL:017-738-2214	FAX:017-738-2249
■ 村上病院	青森市浜田 3 丁目 3-14	TEL:017-729-8888	FAX:017-729-8887
■ メンタルクリニック ラ・ポム	青森市緑 3 丁目 9-2 (サンロード1F)	TEL:017-718-8277	FAX:017-718-5260
■ 介護老人保健施設 ニューライフ芙蓉	青森市妙見 3 丁目 11-14	TEL:017-728-2200	FAX:017-728-2203
■ 住宅型有料老人ホーム こはる	青森市大字四ツ石字里見 76-1	TEL:017-728-1226	FAX:017-728-1227
■ 総合ケアセンター さんらく	青森市妙見 3 丁目 11-14	TEL:017-728-2201	FAX:017-728-3452
■ ふよう保育園	青森市浜田 3 丁目 3-49	TEL:017-763-5776	FAX:017-739-2263

グループ施設

■ 特別養護老人ホーム 朝光苑	青森市横内字亀井 245-1	TEL:017-764-5117	FAX:017-764-5118
■ ストレスケアセンター ふよう	青森市花園 1 丁目 25-20	TEL:017-718-2566	FAX:017-718-1533



医療法人 芙蓉会のホームページをご活用ください

■各施設情報・活動報告・ブログ ■イベント情報 ■求人情報 など

随時更新中 <http://www.fuyoukai.or.jp/>

芙蓉会

検索



本誌に関するお問合せ：広報企画課 017-764-1815 kouhoufuyou@fuyoukai.or.jp